豊田工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現B

科目基礎情報

科目番号	02230	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「ヒビスピ」（アルク） 「めざせ100万語！読書記録手帳」（コスモピア）		
担当教員	浅井 晴美,寺嶋 宏樹,川島 彩那		

到達目標

（ア）日常会話で使う基本構文や表現を理解し、音読することができる。
（イ）日常会話で使う基本構文や表現を用いて、英文を書くことができる。
（ウ）多読・多聴活動を通して、1分間で100～120語程度の速さで英語を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	日常会話で使う基本構文や表現を理解し、音読することができる。	教員の助言を参考にしながら、日常会話で使う基本構文や表現を理解し、音読することができる。	日常会話で使う基本構文や表現を理解し、音読することができない。
評価項目(イ)	日常会話で使う基本構文や表現を用いて、英文を書くことができる。	教員の助言を参考にしながら、日常会話で使う基本構文や表現を用いて、英文を書くことができる。	日常会話で使う基本構文や表現を用いて、英文を書くことができない。
評価項目(ウ)	1分間で100～120語程度の速さで英語を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。	教員の助言を参考にしながら、1分間で1分間で100～120語程度の速さで英語を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。	1分間で100～120語程度の速さで英語を読んだり、聞いたりして内容を理解することができない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	英語で聞いたり、話したり、読んだり、書いたりして、対話的な活動を通して、英語表現力の向上を目指す。
授業の進め方・方法	多読、多聴用教材を用いて英語で読んだり、聞いたりして、英語インプット活動に取り組む。また、テキストを用いて日常会話で使う基本構文や表現を理解し、英語で話したり、書いたりして、英語アウトプット活動に取り組む。
注意点	必要に応じて英語辞書を持参すること。また、多読・多聴活動は授業外でも図書館を利用するなどして自主的に進めること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

選択必修（英）

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

必履修

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		2週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		3週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		4週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		5週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		6週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		7週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		8週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
	4thQ	9週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		10週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		11週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。

		12週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		13週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		14週	基本構文や表現の理解と活用 多読・多聴	基本構文や表現の理解と活用ができる。 自分自身の興味、関心、レベルに応じた多読・多聴を行うことができる。
		15週	Review	今までの学習内容を総括し、理解することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	30	50	20	100
基礎的能力	30	50	20	100